

移住するなら

“いい人” 見つけてね！



“いい人(Kさん:上の写真左)”との巡り逢いが、移住を決定づけました。

親の転勤の関係で、関東地方の各地に居住しておりました。千葉の農業関係の大学に在学中、ブラジルへの留学を経験し、その頃から田舎での暮らしにあこがれるようになりました。

大学卒業後、都内の広告関係の会社に就職しましたが、仕事の合間に様々なボランティア活動に参加するうち、「自分のライフスタイルを見直したい」と思うようになりました。そんな時、パルク(NGOアジア太平洋資料センター)のカルチャー講座に参加し、全国の団体等の様々な取組みを視察するなかで長井市を訪れ、レインボープラン(行政と住民の協働により資源循環型社会をつくる取組み)を知りました。

長井市の豊かな自然環境に触れたことで、田舎暮らしへのあこがれは増幅。さっそく、その時に知り合ったレインボープランの研究のため関東から長井市に移住していた同い年の女性に、田舎暮らしへの想いを伝えたところ、Kさんを紹介してくれたのです。Kさんの手配で、直売所での仕事も、近隣住居への間借りも決まり、あとは会社を辞めるだけでした。反対する人はなく、移住はすぐに決意できました。本当に軽い気持ちで移住を考えていましたので、もし、職や住居探しに苦労していたら、移住にはいたらなかったと思います。

移住してからも多くの“いい人”に出会いました。ミニコミュニティ誌「ほんきこ。」の仲間との出

井口 麻さん

山口県出身

2005年 東京 長井市へ移住

伊佐沢共同直売所 “小径の駅いさざわ”

であこがれの田舎暮らしを満喫中。

会いもその1つで、近隣市町村の若者達との交流も深まり、いまでは「ほんきこ。」の代表として、多くの仲間達と楽しいイベントなどを企画しています。

そして最近“いい彼(ひと)”にも巡り逢い、結婚することになりました。結婚を決めたとき、実の親にはメールで報告したのですが、いま親代わりに面倒をみているKさんにはなかなか報告できませんでした。折角よくしていただいた、この地域を離れることになるかも知れなかったからです。

移住してきたばかりの頃から、地域に若者が少ないので、周りの方が自分の存在に注目していることを強く感じ、“ココに住んでみたい”それだけで移住してきた自分の存在に悩んだ時期もありました。しかし、“よそ者”である自分の存在意義を認め、あたたかく見守ってくれた周囲の人々との関係を捨てたくないという気持ちが強まり、彼とこの地域に住むことを決めました。

これまでは独り身でしたので、地域の行事や近所づきあいあまり参加しないで甘えていましたが、身を固めたからには、これまで以上に期待されることを覚悟のうえ、積極的に地域に参加していきたいと思っています。

そして、“いい人” Kさんや地域の方達のために、自分たちができることを探し、これまでのお返しができるかと思っています。



地元農家の方と直売所にて